

平成27年8月25日(火)

いわき市総合教育センター

いわき市平字堂根町1-4

0246(22)3705

街路樹

アクティブ・ラーニングに向けて

最近、研修者の感想を見ると、「アクティブ・ラーニング」という言葉がよく目に付きます。中央教育審議会が検討する、学習指導要領全面改訂の目玉になっているためと思われますが、これらの感想を読んでいて心配になるのは、「アクティブ・ラーニング」という言葉ばかりが一人歩きしていて、文部科学省が意図する「アクティブ・ラーニング」の本質を理解しないままに、この言葉を使っているのではないかと思われる感想もあるということです。



アクティブ・ラーニングとは、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学修※(能動的学修)のことであり、これらは、これまででもなされてきていることです。教科書や教材の扱い方、児童・生徒への与え方・考えさせ方など、授業を創る教師側の視点をちょっと変えただけでも、受動的な学修から能動的な学修へと変換する事例は、授業研究等からも数多く見受けられます。

また、アクティブ・ラーニングを機能させるためには、教師の資質と能力が重要です。例えば「意欲を引き出す問いかけができるか、児童・生徒個人の力を引き出すことができるか、個々人をつなぎグループやチームの力を引き出すことができるか、集団での学びを促進することができるか」などが必要となります。

さらに、アクティブ・ラーニングを進める際に最も重要なことは、安心と信頼です。たとえ、児童・生徒が見当違いの発言をしたとしても、集団がそれを許容し、安心して自分の考えや意見を発言できる環境ができあがっていなければ、グループ活動は活性化しません。

平成26年11月20日に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の内容が中央教育審議会に諮問され現在、「アクティブ・ラーニング」について検討されているところです。



今後、文部科学省より、明確な授業改善への方向性が示されてくると思いますが、我々は、「アクティブ・ラーニング」という言葉に振り回されることなく、文部科学省の動向を注視するとともに、アクティブ・ラーニングが機能するための土台をしっかりと今から築いていく必要があるのではないかと思います。

※「学修」⇒「学問を修める」こと。自らが進んで勉強するという意味であり、学校に当てはめると、授業だけでなく事前の準備、事後の展開などを学修者が自ら行うことにより、深く学問を理解し身につけるという意味で使われている。



8月



～体感したからこそ分かったこと～

特別支援教育



夏休みを過ごして、心も体も一段と成長した子どもたちとの再会はいかがでしたか。

さて、今回は夏休みの「発達障がい教育講座」の中から、子どもたちの困り感を体感する演習が幾つかありましたので、紹介します。

一つ目は、「ある有名なアニメのワンシーンを見て、要約する」という簡単な内容でした。しかし、聞こえてきたのは英語。聴覚的な情報認知が間に合わず、視覚的な情報のみの解釈となってしまいました。

二つ目は、「簡単な文章を書き写す」という内容でした。しかし、プロジェクター画面に映し出された言語はハングル文字。視覚的な情報認知が間に合わず、時間内に5文字ほどしか書き写すことができませんでした。

他にも幾つか体感することができました。これらの体験を通して、先生方からは、「受講前は、こんなことはできて当たり前という気持ちがあったが、子どもたちの困り感を体感することで、気づくことができた。」という感想が多く寄せられました。

発達障がいに起因する困り感を想定して情報提示を補う、困り感を持つ子の身になって情報提示の仕方を工夫することは、全ての子どもたちにとってもより深い理解につながることにになり、それは「ユニバーサルデザイン」という一つの枠組みで捉えることができると感じました。

一段と高まった教師力を発揮して困り感を持つ子どもたちに寄り添うことで、子どもたちの新たな可能性を見出すことができると思います。



～少しの成長にも目をとめ、生かす～

教育相談部

2学期が始まりました。先生方は宿題等の点検、評価に追われていることと思います。そして、子どもの宿題や作品、子ども自身の表情の変化にどんな感想を持たれたのでしょうか。

「よく頑張ってやってきたな。」

「もう少し努力してほしかった。」など、様々でしょうが、どの子もこの1ヵ月で確実に成長しているはず。そこを見つけてくださって、2学期への意欲へとつなげてほしいのです。学習面での頑張りは勿論ですが、身体での成長でもいいのです。「わあ、ずいぶん背が伸びたね。運動頑張ったからかな。」でさ

え、子どもにとってはうれしいものです。そこから2学期の目標ができるかもしれません。宿題が終わってなくても、精一杯努力してきているかもしれません。そこを見てあげてください。「どうして全部やれなかったの?」「2学期もやらないの?」などという叱責からの出発だけは避けたいものです。

